

2つの研究プロジェクトの 成果をいかした研修会を開催

こどもみらい館では、平成16年度に、「子育て支援」と「保育の質の向上と保幼小連携」をテーマとする研究プロジェクトを立ち上げました。第1期、第2期、第3期と積み上げ、平成28年6月から30年3月までの間、第4期に取り組んできました。両研究プロジェクト共に、これまでの成果をいかに発信していくかが大きな課題としてあがっており、今回、共同機構研修会の一つとして、発信できたことはとても嬉しいことです。

研修会の内容や受講された方のご意見などをお伝えします。



子育て支援研究プロジェクト報告会より

子どもの心の育ちの連続性研究プロジェクト報告会より



スーパーバイザー

鯨岡 峻 さん（京都大学名誉教授）



研究アドバイザー

大倉 得史 さん（京都大学大学院准教授）



気持ちに寄り添う子育て支援

子育て支援をテーマに、保護者の気持ちに寄り添うことについて、国公立・私立の保育園(所)・幼稚園・認定こども園の先生方でエピソードの検討等を重ねながら意見交換し、保護者自身を1人の主体として尊重し、ありのままの姿を認めることの重要性をパネリストから報告しました。また、今回作成した「親の気持ちを考えるためのミニエピソード集」を用いて、参加者でグループ討議を行い、共に学びあいました。

パネルディスカッション

パネリスト

(平成29年度末の所属です)

- 民営保育園
認定こども園 : 杉田 のり子 (メグミ幼稚園主任保育士)
市営保育所 : 渡邊 眞里子 (京都市楽只保育所副所長)
私立幼稚園 : 植田 眞千子 (佛教大学附属幼稚園教諭)
国公立幼稚園 : 高田 仁美 (京都市立翔鸞幼稚園教頭)

講評

スーパーバイザー

鯨岡 峻 さん
(京都大学名誉教授)

研究アドバイザー

大倉 得史 さん
(京都大学大学院准教授)

パネリストから

保護者に
心を寄せるには？

保護者の気持ちや思いに対して、支援者が分かってもらうこと、そして、自分ならどうかと相手の立場にたって考えることが大切だと思いました。

様々な親の見方や
心の引き出しを
広げたい！

懐深い見方ができるようになることで、様々な保護者の個々の気持ちに寄り添えることが分かりました。

懐深い支援を
広めたい！

作成したワーク集やエピソード集を使って話すことで、他者の意見を聞いて思っても見なかった視点を知ることが寄り添いの幅になると思います。

アンケートから

保護者の気持ちに共感するには、想像力が必要だという言葉にはっとしました。

保護者の気持ちに寄り添う際に立場や体調、家族背景、様々なことが考えられることを再認識しました。

ミニエピソードを使ってのグループワークはいろいろな見方が発見できてよかったです。エピソード集が上手く活用できたらいい。

事例検討は面白い。
いろんな人の話が聞けて良かった。

冊子

「あなたなら、どう寄り添いますか」

ワーク集とエピソード集を一冊にまとめています！

現在、
作成中です！



年度末に、各園(所)に送付予定

子どもの心の育ちを共有し 心を育む保育・教育を広げ、実践しよう

保育の質の向上と保幼小連携・接続をテーマに、国公立・私立の保育園(所)・幼稚園・認定こども園と小学校の先生方が集い、子どもの心の育ちについて語り合ってきた中から、互いに理解し合っていく過程や、子どもの心をつなげ、積み重ねていける連携、接続の実践例とポイント等についてパネリストの生の声で報告し、ワークを通して就学前の先生方と学校の先生方で語り合いました。

パネルディスカッション

パネリスト

(平成29年度末の所属です)

- | | | |
|--------|----------|------------------|
| 民営保育園 | ： 押領司 敬子 | (白菊こども園指導保育教諭) |
| 認定こども園 | ： 小泉 公平 | (京都市辰巳保育所保育士) |
| 市営保育所 | ： 田中 康雄 | (光明幼稚園副園長) |
| 私立幼稚園 | ： 外園 知子 | (京都市立中京もえぎ幼稚園教頭) |
| 国公立幼稚園 | ： 坪田 由希子 | (京都市立明德小学校教諭) |

コーディネーター

岸田 蘭子 (京都市立高倉小学校長)



講評

スーパーバイザー

鯨岡 峻 さん (京都大学名誉教授)

乳幼児期に大切にしなければならないこと、小学校につなげていきたいと考えることはたくさんあります。けれど、その中で一番大切にしたいのは、

「子どもの心の育ち」だと思います。

園の先生も小学校の先生も、子どもの心を大切にしたいと思っています。でも、どのような育ちを「心の育ち」と捉えているのでしょうか。

そのためには、互いを知る事が第一歩。具体的な子どもの姿を語り合う中で、保育と教育、それぞれに大切にしたいと思っていることや願いなどが伝わり合いました。園の先生はこれからの育ちを知ること、学校の先生はこれまでの育ちを知ること、自らの保育・教育を振り返り、見直していくことが大切だと感じています。

アンケートから

グループワークで小学校の先生と話し合い、思いや願いの共有ができたことが嬉しかったです。心の育ちをつなげられるよう働きかけていきたいです。(園の先生)

園の先生方とお話する機会がなかなかないので貴重な時間でした。このような機会がもっとあればいいなと思いました。(学校の先生)

小学校の先生の生の声を聞くことができ、問題点ではなく、保幼小接続のメリットを感じながら、共に子どもの心の育ちを見ていく者として同じ方向を向いて連携し、子どもとかわっていくことが大切だと感じました。(園の先生)

今日教えていただいたことやワークをもとに、園への連絡をとることを実践していこうと思いました。子どもたち一人ひとりを大切に、受け入れることも改めてきちんと取り組みたいです。(学校の先生)

講評でお話された「心の二面性」はとても良かったです。それが人間だということを心に留め、改めて学校教育にかかわっていききたいと思います。本当に感動しました。(学校の先生)

ちょこっと

保幼小連携・接続 ハンドブック
年度末に増刷
各園所校に送付予定